

# 「近畿ならびにその影響圏における わらべうたの音楽学的研究」について（そのⅠ）

酒 井 諄  
大 谷 紀美子  
西 島 恵 子

## 〔研究の目的〕

民族の音感、音組織、音楽性の解明は、音楽学にとって重大な意義を持つが、特にわらべうたの研究は、それらの根源的な様相を探究するのに最も適している。すなわち、わらべうたの音楽学的研究が、その民族の先験的な音感、音組織、音楽性へのアプローチの出発点であり、また、それらの解明が本研究の最終目的である。

わが国においては、東京を中心として、すでに各地のわらべうたの採集調査が行なわれてきた。東京のわらべうたの採集調査は、小泉文夫編、「わらべうたの研究」(1969年9月、わらべうたの研究刊行会)として、最近その成果が発表された。しかし、近畿圏および、その隣接地域にはほとんど手がつけられていない。本研究は、その空隙を埋めるものであり、これまでの他の地域に関して行なわれてきた研究成果と結合することによって、日本全体のわらべうた研究が完成され、ひいては日本の民族的音楽性が解明されるものである。

本学においてはすでに、1968年度、音楽学演習(「比較音楽学」馬淵卯三郎、平野健次、小野功龍担当)において、わらべうた採集を実習した。音楽学専攻の3、4回生、研究生、副手によって、1968年6月には、大阪市浪速区の木津幼稚園、7月には河内天美小学校において採集が行なわれた。本年度にはいって、さらに梁島氏、大西氏など参加メンバーを増し、大阪市立真田山小学校、西船場小学校において、採集が行なわれた。

以上のような予備的フィールドワークの実験と、参加者の討論から、近畿ならびにその影響圏のわらべうたの総合的研究を行なうことになり、昭和44年度科学研究費補助金、総合研究(A)(文部省)が与えられ3年計画で実施することになったことは、すでに報じられたとおりである(朝日新聞昭和44年10月12日付)。本研究参加者のうち、主として採集を担当するのは、酒井、馬淵、平野、小野、井野辺、梁島、大西、大谷、中山、西島、岸本である。

× × × × ×

採集に関しては、従来の経験から次のように実施することに決定した。

1. 小学校4年生男女児童を対象とする。幼稚園児あるいは低学年児童では遊びのレパトリーが少なく、また、上級学年では余り遊戯をやらなくなる傾向が考えられることから、4年生をもっとも適当な調査対象と考える。

2. 対象児童は無作為に抽出された男女10～20名が、その比率は男1：女2が適当である。  
成績の良い子供、特に音楽教育を受けている子供よりもむしろ、遊びを多く知っている活発な子供が望ましい。男女の比率1：2は、過去に行なった採集調査の経験から、女の子のほうがより多くの遊びを知っているが、即興的な悪口うたなどは、男の子のほうに多いということ考慮の上、定めたものである。

3. 今年度は下記の地域から100校を選んで採集する。

大阪・神戸	160校
京 都	20校
名古屋	20校

大阪を旧行政区分にしたがって大きく分けると、河川が境界線となり、摂河泉、すなわち摂津（旧市内を含む大阪市周辺）、河内（生駒山系と大阪城以東との間）、和泉（堺より南、和歌山に至るまで）となる。したがって、大阪・神戸160校の内訳は、

神戸・西宮・尼崎（神崎川以西）	15校
宝塚・豊中・池田・北摂（淀川以北）	5校
東西南北及び、天王寺区（旧市内及び天王寺区）	20校
北河内・中河内（淀川・大和川の間、大阪城以北）	10校
堺・和泉・南河内（大和川以南）	10校

である。

4. 採集すべきわらべうた

(0) となえうた

- 数をかぞえる  
ひとつ、ふたつ……  
いち、に……  
ほんさんがへをこいだ
- となえことば  
あした天気になあれ  
かくれんぼするものこの指とまれ
- わるくち、はやしことば  
女の中に男が1人  
先生にいうたる
- 頭韻あわせ  
池田イがつくいんやのいんすけ

(1) 絵かきうた

- 主に、字（文字・数字）を用いてかくもの
- 主に、物の形によってかくもの

◦字と形の混合したもの

棒が1本あったとか

たてたてよこよこ丸かいてちゃん

イッチャンとこのニイチャンが……

サンチャンが……

てる子さんと花子さん……

(2) おはじき, 石けり

(3) おてだま, はねつき

おさらい

(4) まりつき

あんたがたどこさ

いちもんめのいすけさん

いちりきらいらい

(5) なわとび, ゴムなわ

◦順番とび

おじょうさん(2人とび)

いちわのからす

いちろうさん

月火水木……

◦ジェスチャーとび

たわらのこねずみ

ゆうびん屋さん

どんどんどなた

(6) じゃんけん

基本的なじゃんけん

◦いんじゃんほす

ゲーチョキパーあそび

◦ぐんかん

◦ゲーチョキパーごっこ

◦グリコ, パイナップル

◦チーちゃんパーちゃん

◦ねこがねずみとっていたちがわらう

(7) お手あわせ

◦純粋なお手あわせ

みかんの花が

夏も近づくと八十八夜

- じゃんけんあそびと結合したもの  
ももたろうさん  
おちゃらか
- ジェスチャーあそびと結合したもの  
いちかけにかけ  
お寺の花子さん  
じゃがいも

(8) からだあそび

- 指あそび  
あんた ちょっと みかけによらない  
線路はつゞくよ
- 手と腕あそび  
おなすび
- 体全体の運動を伴うもの  
人工衛星まわる  
ごんべさんの赤ちゃん

(9) 鬼あそび

- おいかけ鬼  
あずきたった
- かくれんぼ  
下駄かくし
- ひっこぬきあそび  
たばこ1本
- 関所あそび  
通りゃんせ
- 人あて鬼  
かごめ
- 子もらいあそび  
たんすながもち

以上各研究員が、最低限、必ず採集すべき遊びの種類をあげた。その理由は、

- (1) 各個人の採集結果がバラバラでは、総合研究として意味になるし、また集計した際1つの資料として利用価値がない。
- (2) 「わらべうたの研究」が出版されたが、それは1つの区域を組織的、学問的にかなり大規模に調査された唯一の例である。その成果を生かし、互いに補い合い、相互の研究に

より意味を持たせるため、本研究でも「わらべうたの研究」の分類法にしたがったのである。もちろん、近畿圏に、その東京のわらべうたの分類が、そのまま適用できるかどうかについての疑問がないわけではなかったが、實際上、不都合はないだろうとの予想に立って決定されたものである。

## 5. 採集の実施方法について

### ㉑ 採集用小道具

なわ（1人とび用，大勢用），ゴムとびのゴム，まり，おてだま，おはじき

### ㉒ オーディオ器機

採集調査において、広域性および調査対象が児童であることを配慮し、携帯用小型録音機（カセットテープレコーダー）を使用することに決定したが、現時点においては各自、個人の器機を使用するので、特に限定はしない。スタンダードのテープを使用する場合は片面のみ録音を行なう。また、テープ1本あて、1校とし、1本のテープに2カ所の録音は絶対にしない。採集中は、テープレコーダーを回しっぱなしにして、途中で切らない原則である。テープの最初、カセットの場合は各面の初めに、音叉のaの音、採集年月日、採集地等のクレジットをいれる。また、録音中にもできるだけ多くクレジットをいれ、採集者以外の者がその録音によって、子供達の遊び方がわかるようにする。

採集したテープはマザーとして保存し、採譜にはダビングしたテープを使用する。

### ㉓ VTR，8ミリ撮影機，写真機

わらべうたは、遊びの伴ったものがその大多数を占め、その習俗的な実態調査を目的とするので、録音のみならず録画の必要性がある。VTRは録音、録画が同時に行なわれるので、もっとも理想的であるが、経費などの点から、8ミリ、及び写真機を併用する。

### ㉔ カード

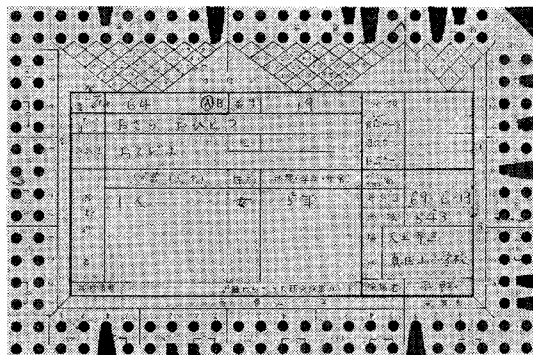
採集カード，テープカード，資料カード，採譜カード，遊戯カード（絵書きうた用）の5種類のカードを使用する。

#### 採集カード

膨大な資料の収集が当然行なわれるが、整理しやすい点、また、その資料を研究に利用する際、非常に便利であることなどの理由により、パンチカードを使用する。

うたい出し、地域（郵便番号）、採集者（各々番号によってあ

らわす）、テープ番号、遊戯法（前出の番号で）の分類は上記の例のように、パンチをいれ、その他詳細なことは、採集時に録音と同時に記入する。原則として、誤記を防ぐため、資料



整理の段階での書き移しは避ける。

前出のカードを説明すると、

うたい出し、第1音 お、第2音 さ、第3音 ら である。地域は、すなわち郵便番号 543番である。テープ番号 64, 採集者番号 1 で平野のことである。

テープカード

テープ番号	A(✓)	速度	機種	採集者	VTR	音声	採集者	採集者	採集者
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									

資料カード

学校名、所在地、校長名、関係教員、学校環境、通学分類・地域、被採集者の人数・学年・性別・転校者・家庭の職業、テープ番号、VTR番号等を記入する。

遊戯カード（絵書きうた用）

コピーをする便宜上、トレーシング・ペーパーを用いる。

遊戯カードの通し番号、日付、学校名、学年、氏名を記入する。

カードの大きさは、保管に便利なよう、同系列のものを使用。本研究においてはA系列に統一した。

㊤ 採譜に関する具体的なことは、次回の報告にゆずりたい。

㊥ 採集調査の具体的な計画

1回の採集調査には、数名であたるのが理想的であるが、本研究では一応、調査員1名、調査補助1名の計2名をもって編成する。1名が誘導、他1名が記録、および場合によっては、写真撮影を行なう。VTR使用の場合は、3名以上が必要である。また、採集後はただちに採譜を行なう。採譜は採集者全員の仕事である。

本研究の参加人員は次の通りである。

相愛女子大学	酒井 諄	「わらべうた採集」
”	小野 功 竜	「 ” 」
大阪音楽大学	井野 辺 潔	「 ” 」
京都教育大学	梁 島 章 子	「 ” 」
相愛女子大学	大 谷 紀美子	「 ” 」
愛知教育大学	大 西 友 信	「 ” 」
大阪教育大学	樫 本 正	「わらべうたの地域性」
相愛女子大学	仲 芳 樹	「わらべうた採譜上の問題（微少音程）」
”	大 橋 博	「わらべうた採譜上の問題（リズム）」
”	辻 井 英 世	「わらべうた採譜上の問題（アーティキュレーション）」

相愛女子大学	中山 明 慶	「わらべうたの採譜理論」
大阪教育大学	馬 淵 卯三郎	「わらべうたの分析（音組織，旋律型楽式）」
東京芸術大学	小 泉 文 夫	「わらべうたの分析（リズム，楽式）」
独 協 大 学	平 野 健 次	「わらべうたの分析（言語，習俗，楽式）」
相愛女子大学	佐 藤 允 彦	「わらべうたの比較研究（ヨーロッパ）」
東 京 大 学	岸 辺 成 雄	「わらべうたの比較研究（非ヨーロッパ）」

以上とりあえず、「わらべうたの音楽学的研究」の第1回報告とする。